

4月14日以降、熊本及び大分で連続して地震が起きています。最大震度は7、本震以降も1000回を超える余震が続き、被害も拡大しています。お亡くなりになられた方の御冥福をお祈りするとともに、被災した皆様にお見舞いを申し上げます。

九州各地からの励ましや支援、心強く感じています。いまこそ、一丸となって取り組んでいく必要があります。一緒に頑張っていきましょう。

## 【佐賀県】第56回耳の日記念の集いに参加して

ひと雨ごとに暖かくなり、春の訪れを感じる3月13日（日）嬉野文化会館リパティ（嬉野市塩田町）において、第56回耳の日記念の集いが開催されました。10時から始まり、実行委員長の平方由佳里氏より歓迎の挨拶、県聴協理事長の中村稔氏の挨拶、県障害福祉課長の五郎川氏と嬉野市長より、ご祝辞の挨拶がありました。

今年はW講演！！と言うことで、午前の<第1部>は、大阪パントマイム協会の芳本光司氏と田中真吾氏の公演で、「音のない世界」と題して2人のパントマイムが始まりました。その息の合った動きで、私も会場も、とても面白くて笑っていました。その後講演では、「私とパントマイム」、「ろうあ者とチャップリン」の話の中で、パントマイムとの出会いや世界の国々でのパントマイムでの活動をしている様子を見ながら、いろんな話がありました。

午後は<第2部>でアトラクションとして、嬉野高校生の手話パフォーマンスと、手話サークルあおいとりによる「明日があるさ」、「好きになった人」、2曲の手話コーラスの発表でした。のびのびと楽しく表現されてありました。午後の講演では、今井彰人氏の「生い立ち」と題して、今の自分があるのは、家族（デフ）の影響、いろんな人に出会って今の自分があると感謝の話がありました。また自分で演出し、自主製作された映画を観ました。話を聞いているうちに今井氏の前向きな気持ちが強く表れているのを感じる講演でした。

最後はお楽しみの抽選会があり、みなさんととても楽しい雰囲気でもの日記念の集いが終わりました。  
(伊万里手話の会 松尾えり子)

## 【大分県】「耳の日記念」（大分県ろうあ者福祉大会）

今年は佐伯市で第48回大分県ろうあ者福祉大会が開催されました。会場は佐伯文化会館で築40年以上の由緒ある建物なのですが、残念ながら高齢者や足の不自由な方には、階段や坂道が多い優しくない会館でした。

午前中は例年通り大会式典が行われましたが、会場には、空席が目立ち、参加者目標600人でしたが、516人と少し足りない結果となりました。これには、参加条件に聴覚障害者協会の会員と賛助会員でなければならないということもありますが、聴覚障害者と地域住民との間の相互理解を深める目的なら、一般参加も必要なのではと考えさせられることもあります。



午後の部は 講師に菊川 れんさんを招いて「ろう者と聴者のズレとは？」のテーマで講演していただきました。一番衝撃だったのは彼女の手話ソングです。健聴者が好きでろう者が嫌いという手話コーラスですが、彼女の「津軽海峡冬景色」は手話活劇といえるパフォーマンスでした。というも彼女は演劇活動もしているので素晴らしいものでした。手話通訳がとても素晴らしかったのですが、それも彼女の専任の通訳士だったのです。その方の紹介がなかったのが、ちょっと残念でした。

次回は国東市で開催予定ですが、みんなに優しい建物だったらと望みます。

(別府にじ(昼)サークル 小林慶子)

## **【長崎県】長崎県手話サークル連絡協議会創立40周年記念行事～つなぐ手～**

2016年2月11日(祝日)長崎県立ろう学校の体育館で開催されました。

創立記念式典は、小濱会長の挨拶で始まり、功労者表彰・来賓の方々のご祝辞を頂きました。式典の後は、県内各地から集まった189名の、サークル会員・ろう者・子供からご高齢の方まで集まり、チーム対抗大運動会が盛大に行われました。

参加者は8チームに分かれて、必ず一人一回はオープン競技か得点競技に参加し、場内は次第にヒートアップして来ました。さらに、急遽行われた競技の応援合戦と人間指文字は、各チームの団結力をパワーアップさせ、最後のチーム対抗リレーでは走る人も応援する人も高揚して、声援・歓声と拍手、会場が最高に盛り上がりました。



今日のこの日は、聞こえる人も聞こえない人も手を取り合い、何も心配することも無く、とても楽しく、「共に生きる」ことを実感した一日でした。40周年記念行事に相応しい素晴らしい大会でした。今後のサークル活動につなげて行きたいと思います。

(南島原手話サークル 草野)

## **【宮崎県】平成27年度 宮崎県サ連研修会に参加して**

第35回宮崎県手話サークル連絡協議会研修会を1月31日(日)に都城市総合社会福祉センターで、「みんなでもう一度原点に戻り考えてみませんか? “ろう者とは” “手話とは”」をメインテーマに開催し、123名が参加しました。

第1分科会では、手話経験5年未満を対象に、「コミュニケーションについて(障がい者とのコミュニケーション)」というテーマで、都城手話サークルの大橋正敏氏が講師を担当されました。午前は、聴覚障害者だけでなく様々な障がい者とのコミュニケーション方法や自身の経験も含めての講演がありました。午後は、講演に対する意見や感想を話し合いました。参加した聴覚障害者からの問題提起に対して、意見交換する場面もありました。コミュニケーションは相手に伝えたい気持ちを持つことが大事で、そのためにも、聴覚障害者との交流が大事であることを学びました。



第2分科会では、手話経験5年から10年を対象に、「あなたはろう者を知っていますか?」というテーマで、西諸県聴覚障害者協会の徳永吉朗氏が講師を担当されました。午前は、ろう者が言葉を覚える方法や、健聴者の家庭の中でろう者が抱える問題などについて講演され、初めて知ることが数多くありました。午後は、各サークルの活動状況発表、ろう者との交流、障害者差別解消法などについて話し合い、最後に障害者差別解消法と日向手話言語条例について、宮崎県聴覚障害者協会の安藤理事長に説明していただきました。

第3分科会は、手話経験10年以上を対象に、「年齢による手話表現の違い」というテーマで、都城聴覚障害者協会の松下房子氏が講師を担当されました。午前は、古い手話を50単語ほど学びました。午後は、3グループにわかれて、手話表現について討議しました。様々な通訳現場に対応できるように、手話の単語だけでなく、年代によって違う生活背景などの情報の獲得も必要だということ学びました。



第4分科会は、手話通訳を目指す人や、手話通訳活動者が、通訳現場での悩みなどを話し合い、全通研宮崎支部の満平一夫氏が講師を担当されました。2グループに分かれてKJ法を用いたグループ討議を通じて日頃通訳活動で生じる不安や悩みを出し合いました。討議では手話通訳者に求められる幅広い知識や技術、通訳という仕事の難しさ、技術訓練の困難さなどが挙がりました。お互いにその原因や対策などを考える貴重な経験を得た研修となりました。



(日向手話サークル 緒方嘉代)

## **【鹿児島県】 第34回「手話で話そう県民の集い」**

2016年3月20日(日) 鹿児島市中央公民館 参加者370名

下記の二つをメインに開催されました。

- ・午前 記念講演 「一人ひとりが輝いて ～鳥取県手話言語条例制定より～」  
講師 鳥取県聴覚障害者協会 事務局長 石橋 大吾 氏
- ・午後 アトラクション「藤本敏文の生涯」1人の芝居 講師 那須 英彰 氏

鳥取県で手話言語条例が制定されるようになった経緯についての話で石橋さんの講演が始まりました。

一昨年、佐賀での全九州大会共通研修の講演と重なる内容もありましたが、さらに進んでいるという実感ももちました。

「手話に誇りを」という意味で、全国で初めて手話言語条例が制定された2013年10月8日を記念して10月8日が「手話の日」とされているということです。制定前は、手話で表現すること、手話通訳がいて情報を繋いでいること等が奇異な目で見られることもあったが、今では、教育、行政、企業等において手話を学ぶ機会が増えてきているし、観光地における手話観光ガイドも実施されているということです。聴覚障害者を雇用する企業も増え、新聞社に採用された方は、毎週(日曜日)の手話コーナーを任されているそうです。このように手話が普及しているのは、条例制定によって相当の予算が確保されていることに支えられていることが分かりました。



手話が市民権を得てきているということを感じました。そして、手話言語条例の制定が到達点ではなく、そこを出発点(抛り所)にして社会を変える、「いつでもどこでも コミュニケーション・生活支援の保障を目指して」という理念に近づいていく姿がよく分かりました。

鹿児島も一足飛びにそこまではいけなくても、少しずつでも近づいていきたいという思いを、参加者一同に感じさせる充実した講演でした。

那須さんの講演(一人芝居)は、全日本ろうあ連盟の初代委員長である藤本敏文氏の生涯を、8歳頃からだんだんと耳が聞こえなくなった生い立ち、父親の死去に伴い京都盲啞院中等科を退学。竹細工の見習いをしながら家計を助け、中等科講義録で独学するという苦学の様子、その後の盲啞学校での職歴、ろうあ運動への関わり、83歳で逝去するまでを手話で伝えるというものでした。

スクリーンに文章や映像が映し出され、それに関わることを那須氏が手話で伝えるというものでした。簡潔な手話表現でありながら、人物の心情、情景等が生き生きと伝わってきました。その手話表現の豊かさだけでなく、藤本氏の生き方、情熱等に感動しました。藤本氏の業績等を詳しく知らなかった自分

自身の不明を恥じながら、いい勉強ができたという思いでした。

講演終了後、藤本氏に関わりのある人々の思いが映像で流され、那須さんの解説がありました。旧国鉄時代に始まった障害者運賃割引、障害年金の制度も藤本氏の功績が大きいことも知りました。

後日、地区のサークルで、石橋氏、那須氏の手話が見えにくかったと聴覚障害者の指摘がありました。健聴者は、通訳者の聞き取り音声で内容が把握できますが、場内の条件によっては情報把握に差が出てくるということを再認識しました。

(指宿手話サークルなの花 出森 俊郎)

## **【福岡県】第45回福岡県ろうあ者耳の日記念集会**

平成28年3月6日(日)福岡市のアクロス福岡イベントホールで開催されました。

来年福岡県で開催される、第65回全国ろうあ者大会を控え、54年前福岡県で開催された全国ろうあ者大会の記録映像が上映されました。昭和37年の映像でしたが、大会の準備や会議の様子、大会終了後のバス旅行の様子が記録されていました。バス旅行は、雲仙や長崎への旅行で、バスガイドさんが手まね(手話)を交えながら案内をされていました。

その後、来年の第65回全国ろうあ者大会の概要説明がありました。平成29年6月1日(木)～4日(日)福岡国際会議場及び福岡国際センター(福岡市)で開催され、あわせてWFD(世界ろうあ連盟)理事会や講演会等も開かれます。大会のシンボルマークの発表や開催の規模等の説明があり、これから大変だと思いつつ、いよいよトークショーの時間となりました。

トークショーのテーマは「連盟創立70年！第65回全国ろうあ者大会開催にあたって、期待すること～連盟三役として、それぞれの想い～」です。

講師は 全日本ろうあ連盟理事長 石野 富志三郎氏

全日本ろうあ連盟副理事長 小中 栄一氏

全日本ろうあ連盟 副理事長 長谷川 芳弘氏

全日本ろうあ連盟 事務局長 久松 三二氏 の4名です。



第65回全国ろうあ者大会のシンボルマーク

54年前の記録映像の感想を頂きました。若き日のろうあ協会の会員さんや大阪のろう学校の先生が映っていたりと懐かしく。何よりバスガイドさんが美しいなど。久松氏からは、バスガイドさんより福岡のろうあ協会の女性が美しかったと、フォローもありました。

全国ろうあ者大会の忘れられない思い出を話されましたが、苦勞して運営又は参加した大会ほど忘れられないとのことでした。来年、全国からろうあ者大会に参加される皆様には、福岡県流のおもてなしで温かく迎えて下さいとのこと、胸に刻みました。

余談ですが、小中副理事長は、福岡を描いている漫画「クッキングパパ」の大ファンで、作者のうえやまとちさん(福岡在住)に会えたら嬉しいなど、話されていたりしました。

(福岡手話の会 池尻 和吉)

用意された椅子700席がほぼ埋まる中で、8mmの上映が始まりました。54年前の全国ろうあ者大会の準備から別れまでの、長い記録です。

男たちは大会に向けて、たばこの煙の中で大激論。女たちは子供を遊ばせながら、記念のタツノオトシゴの絵柄入りの日本タオルを畳む作業をしている。どちらも笑顔が途切れません。レンズは、レンガ造りの旧博多駅に降り立った長旅の友人たちの出迎え、誇らしげな大会、ハイライトの旅行へと回り続けます。

石野理事長「私はその頃十歳でした。当時は、ろうの家族は旅行などできない時代でした。きっと大会の後の旅行は、一年に一度の楽しみだったのでしょう」その言葉通り、参加者1,800人みんなが参加したのではないかと思えるほどの観光バスと人の波。男も女も、きっと一張羅であろう服を着て、おめかしをしています。和服姿のご婦人もたくさんいます。その中心にいつもいるのは、一人の若い西鉄バスのガイドさん。一行はフェリーのデッキで潮風と波しぶきを受けながら、島原城、三角港、長崎平和記念公園、西海橋と巡ります。観光地でもバスの中でも、にぎやかで楽しい輪の中心にいるのは、案内をする西鉄バスのガイドさん。石野理事長、相好を崩して「手話で観光案内をしてくれるガイドさんがいるとは思ってもみませんでした。手話講座も通訳士もいない時代にです。彼女は、本当に美しい！」

と。

8mmは映写機もフィルムも高価で、フィルムの劣化も激しく、また写される人の自然な表情から、撮影者との信頼が伝わってくる貴重な記録です。おそらく来年の福岡大会でも上映されるかと思えます。おすすめのサイレントです。

たくさんの方が登場します。わかる限りのお名前の字幕が挿入されています。大会の終わりごろ、「この会場に、映像に映っている方がいらっしゃいましたら、立っていただけますか？」の呼びかけに、何人かのかたが応じられました。会場にどよめきが起こりました。55年間の歴史が見えた一瞬でした。



(北九州手話の会 新虹の会(小倉北支部) 桜木 広志)

## [熊本県]県わかぎ研修会

熊本の派遣制度についての現状報告(熊本県ろう者福祉協会 松永 朗氏)の後、サークルの活動紹介、部門別情報交換、ろう者から学ぶことを考える、の内容で研修会を開催しました。

日々変化する情勢も学びながら、自分たちに何ができるかを考えたり、他サークルと情報交換を行い、より活動を充実させることが目的です。

現状報告では、意思疎通支援事業におけるコーディネーター事業の概要について説明があり、意識を高くもって準備をしておくことを求められました。また、来年度70周年を迎える全九州ろうあ者大会の開催にあたり、多くのボランティアが必要であることや、全国手話研修センターの手話研究所で作成される新しい手話に関しても情報提供がありました。

サークルの活動紹介は、県南に位置する「八代わかぎ」の紹介です。八代わかぎでは、研修部・交流部・広報部と3部門があり、ろう者の問題を広く知ってもらう事を目的として活動されています。市議会の一般質問に手話通訳をつける取組(平成15年6月～)等、積極的に活動されているサークルです。

部門別情報交換では、研修・交流・広報の3グループに分かれて話し合いました。八代わかぎおよび各わかぎから出された現状は次のようなものです。



	研修	交流	広報(機関紙)
やっていること	講演(コーダの人の話、マイナンバー等)、ろう者の話読み取り、同音同義語の使い方、慣用句の表現と意味、ろう者との対話 グループに必ずろう者を1人入れること、初心者にはろう者や先輩が適格なアドバイスを(意味・表現が合っているか、何か気付いたことはないかを確認)等を心がけています。手話がわからなくとも諦めず、学ぼうという姿勢が大切	ゲーム(サイコロトーク、指文字しりとり、伝言ゲーム等)、季節に応じた内容(歓迎会、お花見七夕、ミニ運動会、クリスマス会等)、各地域の現状の報告	年に3~5回発行が多いが休止中のサークルもあり。内容は情報(行事のお知らせ、行事に参加した感想、本の紹介等)ほとんどのサークルは会員全員に配布
課題や悩み	手話技術の差、参加者の減少、定着しない、長く休むと参加しにくくなる、毎週参加できず継続した取組がづらい。	参加者数の減少、手話がうまくなるとサークルに来なくなる人がいる、新人では緊張して来なくなる人がいる	担当者の負担大 内容のマナー化

午後からは絵本の読み聞かせ、中央支部の縦田和美氏の「四季」など、豊かな手話表現に触れ、改めて「ろう者から学ぶ」ことを考えました。

ろう者一人一人手話が異なること、生活や歴史等の背景も含めてかかわること、分からないときにわかったふりをしてうなずいたままで終わってしまうのは失礼だということ…等々。「手話」は「言語」でありコミュニケーションの手段であることを改めて感じさせられました。

(天草わかぎ 吉野 綾)

## 「平成28年熊本地震聴覚障害者支援対策本部」が設置されました。

平成28年4月14日(木)午後9時26分ごろ、熊本県熊本地方を震源に、M6.5の地震が発生。熊本県上益城郡益城町で最大震度7、熊本市内でも震度6弱を観測。

さらに、4月16日(土)深夜1時25分ごろ、M7.3の本震が発生。益城町、阿蘇郡西原村で最大震度7を観測。熊本県内だけに限らず、九州全体に大きな揺れをもたらしました。

この本震により状況が一変。各地でライフラインが絶たれ、多くの人が避難しました。

同日、(一財)熊本県ろう者福祉協会は、難聴者・中途失聴者協会、通研、手話サークル、要約筆記者等、関係団体に呼び掛け、「平成28年熊本地震聴覚障害者支援対策本部」を立ち上げました。

これまで、4月16日(土)、20日(水)及び30日(土)と、計3回の対策会議が開催され、会議の様子は、NHK「ろうを生きる 難聴を生きる」でも全国放送されました。

4月22日(金)～23日(土)には、全日本ろうあ連盟中央本部メンバー等の視察団が来熊。視察団は、熊本聴覚障害者総合福祉センター、情報提供センター及び熊本県庁を訪問。さらに、熊本聾学校や聴覚障害者が避難する避難所を視察。

4月29日(金)には、福岡県春日市クローバープラザにて、九州ブロックの対策会議が開催され、公的な手話通訳者等の派遣と、支援物資等の収集・運搬について協議。九州内での支援体制を確認。

4月30日(土)の第3回目の対策会議にて、組織体制の再確認と、聴覚障害者の安否確認の第二ステージとして、生活再建に向けてのニーズ調査「聞き取り調査」をろう協各支部とサークルとで協力して行う旨を確認。

※4/21 徳島県からコミュニケーション支援者が着るビブスが届きました→



○熊本地震に対する寄附受付開始

肥後銀行 砂取出張所(支店コード139) 口座番号 107955

名義 一般財団法人熊本県ろう者福祉協会 理事長 福島 哲美

## <編集後記>

冒頭にも書いたように、未曾有の大災害と直面しています。

今回の「はっけん」は各地域の活動状況を報告しました。大きな地震があり、内容を変更して構成すべきなのか迷いましたが、計画通りの内容で発行させていただきました。

私の住んでいる地域では大きな被害はなかったものの、終わりの見えない余震に不安がいっぱいです。被害の少ない地域でもこうですから、ライフラインが絶たれている地域の方々、避難所生活が続いている方々の不安はいかほどかと思えます。

地元のサークルのろう夫婦は、地震が来た時にすぐに手を取って避難できるよう、交互に睡眠をとっていると話されていました。また、以前、長崎の諫早サークルに教えてもらってサークルで紹介した「避難リュックづくり」を実践されており、役だったとも話されていました。私たち手話サークルの活動は、すぐに成果や答えが出るものでもなく、悩んだり、無力感を感じることもありますが、日々の積み重ねが生きてくることを信じていきたいと思えます。

この「はっけん」も同じ側面があるのかもしれませんが。聞こえる人も、聞こえない人も、九州が一丸となって進んでいくための、情報共有のツールの一つとして、充実させていけたらと思えます。ご意見やご感想等、お寄せいただきましたら幸いです。



九州手話サークル連絡協議会

(事務局) 〒861-0143

熊本県熊本市北区植木町大和3-4-2

森 保夫

発行責任者：中元 教博

広報担当者：吉野 綾(熊本)

発行年月日：平成28年4月30日